

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4270401195
法人名	医療法人 七久会
事業所名	グループホーム おこんご
訪問調査日	平成 19 年 10 月 24 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 26 日
評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4270401195
法人名	医療法人 七久会
事業所名	グループホーム おこんご
所在地 (電話番号)	長崎県諫早市小長井町小川原浦656 (電 話) 0957-34-2007

評価機関名	社会福祉法人 長崎県社会福祉協議会		
所在地	長崎県長崎市茂里町3番24号		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年 9月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	16 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	12 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,000~3,000 円	その他の経費(月額)	— 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	160 円	昼食 320 円
	夕食	320 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 9月11日現在)

利用者人数	15 名	男性 2 名	女性 13 名
要介護1	7 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 85.1 歳	最低 57 歳	最高 104 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人七久会山崎医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「やすらかな笑顔の追求」という理念を掲げ、利用者が安心して暮らせるよう、日々の支援に取り組んでいる。
このグループホームは母体が医療法人であり、医療連携体制も整え、日頃の相談はもとより、夜間や緊急時にも医師や看護師の支援が受けられるように日常的にしっかりと連携体制ができており、重度化した場合や終末期についても、利用者や家族、医師と話し合い、方針を共有しながら支援を行っている。
外部評価の結果をもとに改善への取り組みも行われているので、今後、職員の資質向上のために積極的に研修などに参加され、利用者本位の生活が送れるように様々な検討を行いながら、理念に基づく支援が実践できるよう取り組まれることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を活かし、共用空間にソファを置いてくつろげる空間をつくったり、外出の機会を設けたりと改善への取り組みを行っておられるが、外出の支援や介護計画などについては十分な取り組みが行われていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者や計画作成担当者は外部評価の意義を理解し、今回の自己評価にも取り組んでいるが、他の職員が意義を知る機会が十分に設けられていない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年4月に1回開催し、運営推進会議の趣旨や理解と協力を得られるよう伝えるに留まっているが、12月に次回を開催するように予定しているため、今後の取り組みに期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が週1回程度ホームを訪問されるので、その際に利用者の日々の暮らしぶりなどを報告しており、現在のところ便りなどの発行は行っておらず、訪問が少ない家族への報告が十分でないため、手紙や電話で状況を報告しながら、家族からも意見を出しやすい雰囲気づくり、ゆっくりと話をする時間を設けるなどの工夫をして、家族の意見を反映できるよう取り組んでいただきたい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出の機会が少なく、地域との交流が十分に行えていないが、以前から付き合いのある方が利用者を訪ねてホームに立ち寄りしてくれているので、このような交流を徐々に広げていくことを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やすらかな笑顔の追求」という理念を掲げ、利用者が安心して暮らせる住まいづくりを念頭において、支援に取り組んでいる。	○	今後、地域密着型サービスとしての視点を加えることを検討されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念のとおり、利用者がいつも心から笑っていたけりようなケアについて検討し、できることから始めようと考え、日々の取り組みを行っている。		職員全員が理念に対する共通理解を持つように努め、利用者の支援に取り組むことを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動への参加はまだ少ないが、以前から交流のあった知人が利用者を訪ねてくることがある。	○	自治会の集まりに出向いて事業所についての理解を得るよう働きかけたり、地域の行事に積極的に参加するなど、地元の人々と交流する機会を広げていくよう努めることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を活かし、共用空間にソファを置いてくつろげる空間をつくったり、外出の機会を設けたりと改善への取り組みを行っている。管理者や計画作成担当者は外部評価の意義を理解し、今回の自己評価にも取り組んでいるが、他の職員が意義を知る機会が十分でない。	○	外部評価の結果をもとに改善への取り組みが行われているので、今後、外部評価や自己評価の意義を職員全員で共有し、取り組まれることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年4月に1回開催し、運営推進会議の趣旨や理解と協力を得られるよう伝えるに留まっているが、12月に次回を開催するように予定している。	○	利用者家族や自治会長、民生委員、介護相談員など、地域の方々にも運営推進会議のメンバーになってもらっているため、積極的に会議を活用して意見を出してもらいながら、地域との交流を図るきっかけや運営の工夫点を見出し、今後のサービスの向上に活かすことを期待したい。

長崎県 グループホームおこんご

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との連携は今のところあまりとれていない。	○	今後、運営推進会議に加わってもらったり、運営などについて相談するなど、市の担当者との連携が図れるよう積極的な働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	多くの家族が週1回程度ホームを訪問されるので、その際に利用者の日々の暮らしぶりなどを報告しているが、現在のところ便りなどの発行は行っておらず、訪問が少ない家族への報告は十分ではない。	○	便りを発行したり、手紙を書いたり、写真を送付することにより、利用者の生活の様子や行事等について出来る限り家族へ報告するよう取り組むことを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問の際にその都度意見を聞いており、意見箱を玄関横に設置している。	○	家族の訪問時には、積極的に声をかけ、お茶を勧めてゆっくりと意見を聞くようにするなど、家族と職員の話し合いの機会を持ち、家族からの意見をケアなどに反映するような取り組みを検討されることを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や交代はほとんど行われておらず、馴染みの職員による支援を行うようにしている。	○	今後、職員の交代や異動があった場合に備え、利用者への負担を最小限に留められるように、引き継ぎなどへの配慮を検討しておくことを期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修が行われているが、外部の研修の情報が十分に職員に周知されておらず、現在のところ外部の研修を受ける機会が十分に確保されていない。	○	ケアサービスの充実のために、職員一人ひとりが研鑽を積むことは大切であり、少しずつでも研修に参加する機会を見つけ、一人が受講したら他の職員に報告するといった取り組みを積極的に行うよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体が医療法人であることから、医師会などのネットワークはあるが、現在はグループホームなどの連絡協議会への関わりはほとんどない。	○	地域の事業所の連絡協議会や仲間同士の交流を通して、情報共有し、学び合い、サービスの向上を目指す努力を続けられることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設医院の利用者が入居するケースが多く、馴染みの関係ができており、事前に利用希望者や家族と話し合い、見学をしてもらうことなどにより、違和感なくサービス利用ができています。		今後も引き続き、入居に際しては家族や利用者の希望を取り入れながら、利用者家族にグループホームの特性や機能を理解してもらえるような働きかけが行われると、更に効果的ではないだろうか。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が日々の暮らしの中で、どうすれば心からの笑顔で毎日を過ごしてもらえるかを考えながら支援している。		今後も、「心からの笑顔を」との理念の通り、利用者に楽しく笑ってもらえるよう取り組んでいくとともに、利用者職員は、共に生き、互いに支えあいながら生活している人間同士であるという意識を強めていかれることを期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日常的に利用者とは話をする時間をゆとりとり、利用者の思いや意向を把握するようにして、できるだけ希望に沿えるよう努めている。		利用者や家族が十分表出できないニーズにも、細やかな観察などに努めることで汲み取る姿勢を持ち続けて、利用者の意向の把握に努められることを期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は管理者や計画作成担当者を中心として作成している。	○	利用者本人や家族の意見、希望等を十分に取り入れながら、様々な角度からの検討と創意工夫に努め、これまでの生活歴や趣味等にも配慮し、利用者が生き生きとした生活を送るための実行可能で具体的な計画の作成を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しを行っているが、日付や実施の記録が不足しており、見直しを行った時期が不明な点がある。	○	介護計画には作成日を明記し、記録等から利用者の心身の状況の変化などを把握しつつ、常に利用者本位のケアが実施されるよう検討を重ね、定期的な見直しを行いながら実情に即した計画作成に取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体が医療法人である利点を活かし、併設の医療機関と連携を図り、スムーズに利用者の医療的支援が行われている。	○	医療面にとどまらず、生活面においても、利用者や家族の希望や状況に合わせて、柔軟な対応ができるよう検討することを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のこれまでのかかりつけ医が併設病院である場合が大半であり、十分な連携のもと受診の支援を行うことができている。		地域密着型サービスの観点から、今後、地域内の様々な利用者に対応できるように体制を整えられると更に効果的ではないだろうか。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	母体が医療法人ということもあり、利用者の重度化や終末期の支援については、利用者本人及び家族と医師との間での話し合いが行われ、関係者で方針を共有できている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりへの言葉かけや対応は、誇りやプライバシーに配慮して行われている。	○	職員全体が共通理解を持ち、どんなときにも利用者を尊重する対応ができるよう、今後の取り組みを期待したい。また、個人情報にかかる書類等の取り扱いにも十分な配慮を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決められた一日の生活の流れがあり、できるだけ利用者のペースに合わせてるように心がけているが、十分に対応できない面もある。	○	限られた職員配置の中での個別の対応は大変ではあるが、少しずつでも業務の見直しを行うなどの工夫をしながら個別対応できる範囲を広げていくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、併設の医院より運び、ホームで盛り付けを行っており、栄養士の管理のもと、栄養バランスの取れた献立であるが、利用者の好みの反映が十分に出来ない面もある。	○	基準省令第99条3にもあるように、原則として利用者と職員が共同して食事の準備等を行うよう、一品でも、ホームで利用者と一緒に作るなどの工夫をされることを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は入浴日時が決められており、利用者の希望を反映した支援が十分にはできていないが、シャワー浴についてはいつでもできるようにしている。	○	一定の期間の中で利用者一人ひとりのニーズに合わせた入浴をしたり、希望の時間に足浴など、入浴に代わる支援をしたりするなど、日常の支援の中で少しずつでも利用者に合わせて入浴ができるような工夫について検討されることを期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員からの働きかけを行っているものの、利用者の体調や意向で拒否されることがあり、十分な支援が行えていない面がある。	○	利用者一人ひとりの生活歴や趣味を把握するよう、家族に協力を得るよう働きかけるなど、更に利用者について知ることに努め、楽しみがある生活となるよう、様々な工夫を凝らし働きかけることを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの商店まで買い物に出かけるなど、利用者それぞれの身体の状態に合わせて外出する機会を確保するように努めている。	○	歩行や活動の機会が少なければ筋力低下が進行するため、気分転換も含めてホーム周辺で外気に触れるだけでもいいので、外に出る機会をつくるようにし、見守りなどの体制に工夫されることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すぐそばが国道で車の流れが激しいが、職員は常に目配りを怠らず、鍵をかけないケアを実践するように努力している。		今後も引き続き鍵を掛けないケアを実践しながら、外に出ることを希望する利用者には、一緒に散歩するなどの寄り添うケアに取り組まれることが期待される。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網を整備しており、緊急連絡等を含めた事業所内での避難訓練を定期的に行っている。	○	今後は地域の消防署や警察などに協力を依頼し、消防署立会いのもと避難訓練を行ったり、初期消火の指導を受けられるように、協力体制作りに取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を検討し、栄養バランスだけでなく、食事量や水分量についても確保できるように配慮している。	○	昼食が12時、夕食が午後4時半頃となっており、食事時間やおやつなどについても今後検討されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、ソファを配置し、季節に合わせた装飾を行うなどして、居心地のよい空間づくりに努めている。	○	今後も引き続き、居心地のよい空間になるための工夫を検討し、取り組まれることを期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	既存の病室等の建物を利用しているため病室の雰囲気を感じられる面もあるが、利用者の馴染みの家具などを持ち込んでもらうように利用者家族に声をかけるなど、働きかけを行っている。	○	今後も、馴染みのものを居室に持ち込んでもらえるよう家族への働きかけを行うとともに、職員と一緒に作成した作品等を飾る等の工夫に取り組まれることを期待したい。